

## 会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成25年度 第20回
開催日時	平成26年3月14日（金曜日） 午後6時30分から8時30分まで
開催場所	田無庁舎 5階 501 会議室
出席者	委員：石崎副委員長、海老澤委員、大竹委員、小澤委員、高田委員、谷関委員、照沼委員、布施委員、牧田委員、渡辺委員 事務局：浜名課長、日下部課長補佐兼係長、渡邊主査 欠席：渥美委員長、大野委員、後藤委員、島委員
議題	(1) 第19回男女平等参画推進委員会会議録の承認について (2) 西東京市第2次男女平等参画推進計画実績評価報告書について (3) 平成26年度の予定について (4) その他
会議資料の名称	「配布資料」 第19回男女平等参画推進委員会会議録（案） 西東京市第2次男女平等参画推進計画実績評価報告書 平成26年度の予定
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><b>「開会」</b></p> <p>○副委員長： 市長答申には4人の委員が出席した旨の報告を行った。</p> <p>事務局： 3月議会第3次男女平等参画推進計画に関するパブリックコメントへの対応に関する質問があり、パブリックコメントを受けて修正した点について回答した旨の報告を行った。</p> <p><b>議題（1）第19回男女平等参画推進委員会会議録の承認について</b> （委員からの異議はなく、議事録を承認）</p> <p><b>議題（2）西東京市第2次男女平等参画推進計画実績評価報告書について</b></p>	

(30分程度、各グループで話し合い、それぞれ発表を行った。)

「Aグループ」

委員：

「1（学び）で身につける男女平等」についてはA評価、B評価が多く、前向きに取り組んでいただいた。「ジェンダー視点」に基づいた学習機会の提供と学習団体への支援については、さらに充実を図ってほしい。C評価4項目のうち3項目が昨年と同じだった。「2（家庭生活）を豊かにする男女平等」も全体的には評価が向上している。休日保育事業は検討中のためC評価となっているが、A評価が多く、各課が一所懸命にやっているという評価だった。

「Bグループ」

委員：

「（働く場）で実践する男女平等」は、D評価が5つだったのが2つに減った。C評価は3つから7つに増えた。「各課の「改善の兆し」と捉えたい」と書いたが、A評価が増えたのであれば改善の兆しと言えるが、少しオーバーな表現だったということで「少しは前進してきた」と修正したい。市長答申の際、ワークライフバランス推進労使宣言は、生活文化スポーツ部長が職員課長の時につくったものと聞いたが、実効性を期待したい。就労支援については情報提供にとどまっているが、シングルマザーや女性への支援などの推進を望む。「4（まちづくり）をすすめる男女平等」は、女性が参画していない委員がまだある。担当課のコメントをみるとこのままでは難しい。委員会の構成も含め新たなまちづくりにふさわしいものを考えていただきたい。10 地域活動への男女平等参画推進は、これから大いに期待したい。「地域活性動」は誤字で「地域活性化」と修正したい。

事務局：

3の中で「町である」という表現があるが、「市である」としてほしい。

「Cグループ」

委員：

「6 計画を着実にすすめる推進体制」でセンター職員について触れたが、職員数だけでなく適切なアドバイザー（専門員）を常駐させるべきではないか。担当課の自己評価（具体的な事業又は取り組み計画、執行状況・事業評価）は、No.130のように書かれていると評価しやすい。No.187は、件数は書いてあるが前年との比較ができない。No.248は募集人数と参加者数が書いてありわかりやすかった。No.255は利用者懇談会を何回開催する予定だったかがわからないので、評価しづらかった。自己評価の書き方は改善の余地がある。協働コミュニティ課から担当課に対して書き方の指導をお願いしたい。A、B、C、Dではなく、点数化して平均点を出し、平均点を超えるようにしていただくなど、評価のしかたについての意見が出た。

副委員長：

他のグループの発表を聞いて、どうだったか。

委員：

よく書かれていると思った。

副委員長：

質問などなければ、2年間の感想など、それぞれお話しいただきたい。

委員：

私は人権の分野を担当した。最近、DV、ストーカーなど、陰惨な事件が多いと感じる。現実には押し回されて、取り組みは真剣になっている。協働コミュニティ課以外の各課では、女性の人権に対する意識が薄い。例えばDV被害者が住民票の閲覧制限をかけても、戸籍の附表から情報が漏れて大きな事件につながることもある。十分注意して対応していただきたい。

委員：

密度が濃い会議だった。市民の声がダイレクトに計画に反映されると感じた。弁護士会の推薦により参加したが、大変刺激を受けた。

委員：

途中から参加し、今日が3回目の出席であるが、だんだんわかってきたところである。民生委員としてどのように関わっていくか。

副委員長：

民生委員に男女平等参画について伝えるパイプ役になっていただけるとありがたい。

委員：

民生委員は女性が多いが、そもそもなり手が少ない現状がある。

副委員長：

なり手がいないというのは最大の問題である。また、なり手がいない組織を、女性が担っていること自体、男女平等参画の課題があるのではないか。何が問題でなり手が少ないのか。みんなに聞いていただくことから改革になるのではないか。

委員：

評価では家庭生活を担当した。男性向け介護講座はBをつけた。男性の参加が少ない。認知症の母親を介護している息子の暴力も起きていると聞く。これまで世話をしてもらった立場だった人が、自分が世話をする立場になった時、訓練ができていない。講座にも来ない。孤立して追いつめられて暴力をふるうケースが想像される。そうならないためには、市報など市民の目に触れるものに体験談や相談機関などを掲載するなど、講座などに来ない人にも届くような呼びかけが必要だ。

副委員長：

困っていても自分から声をあげない人は支援のしようがない。相談窓口にアクセスできない人をどうするかは大きな課題である。

委員：

ファミリーサポートも退会する会員が多い。退会の原因は、ここからは読み取れなかった。

委員：

特養や保育園の待機問題が解決しないと男女平等参画にはつながらない。働けないということは、働く権利の侵害であり、その人の人生に関わる問題である。独身男性の介護はワーク・ライフ・バランスの問題である。家事をしたことのない男性には介護の知識も生活の知識もない。男性向けの介護講座などがもっとあってよい。いろいろとつながっている問題なので、市役所も縦割りではなく一丸とならなければいけない。男女平等参画の役割は、意識の向上で保育や介護の底上げをしていくことだと思う。意識向上に力を入れてほしい。

委員：

労働組合の立場で参加したが、働きやすい環境づくりに向けてここで学んだことを活かしていきたい。このような場では女性の執行委員に参加してもらうのもよいと思う。

委員：

専門的な立場の委員から意見を出していただいたが、もっと聞きたかったと思う。事業評価は手探りだった。なかなか動かない事業もあった。パリテのことではお願いがある。ホームページをわかりやすいものにしてほしい。やる気のある市民にいかに参画していただくか。また、パリテの事業と公民館の事業はどこが違うのかと思う。公民館で育ててもらった女性たちが、パリテで何ができるか。今、女性センターの立場が弱くなっている。パリテは独自に何ができるか。毎月このような会議を開いている自治体は他にはなく、このまちはなかなか捨てたものではない。

委員：

街路灯やトイレなど、男女平等参画とどう関係するのか最初はわからなかったが、委員の皆さ

んと話し合う中で気付いたことがあった。いい意味で緊張感をもって参加できた。計画づくりは難しかったが、事業評価は一つひとつ考えていった。事務局も委員の意見に対応してくださった。仲間にも伝えていきたい。

副委員長：

途中で司会進行をひきつぎ、ここまでやれたのは委員の皆さんのご協力のおかげである。答申は、市民委員の方も同行して発言してくださったのがよかった。毎月宿題もあり、大変だったが、事務局職員も一所懸命に対応してくださった。事業評価の書き方等については次期の課題である。

### **議題 (3) 平成 26 年度の予定について**

事務局：

今期の推進委員会の任期は 7 月 30 日までである。次回は 4 月 11 日（金曜日）である。4 月は実績評価の最終確認を行う。市長への答申は日程調整する。計画策定の作業が終わったので、来年度は年 6 回の開催を予定している。6 月 1 日の市報で来期委員の公募について掲載する予定である。

事務局：

昨年度は職員体制が十分ではなかった時期もあり、なんとか計画策定にこぎつけた感が深い。市民協働と言われており、なるべく市民の意見を取り入れてやってきた。計画ができたことを嬉しく思う。

委員：

働く母親として関心があり応募したが、密度の濃い委員会で勉強になった。苦勞してつくった計画である。活かしていかなければ意味がない。

副委員長：

市民委員の方がグループ討議の代表になってくださった。市民のがんばりでできたと思う。